

## 例4： 「しばたレストラン」

作文

基礎

中等プログラム 5年

基準	A	B	C	D	E
得たレベル	-	-	2	2	-

### 背景

- この課題は中等プログラム (MYP) 五年目の一学期の初めに実施したものである。日本料理のレストランを訪ねるといふ単元の最後のものである。生徒は実際にレストランに行き食事をした。これはほとんど全員にとって初めての経験であった。
- 準備として一時間使い、前もって課題の内容を説明した。また生徒からの質問に口頭で答えた。生徒は一晩使って作文の内容を考え、A5サイズのメモを準備した。教師側は生徒が自分の力で考えるよう十分配慮した。
- 課題は制限時間40分、試験監督の下で取り組んだ。 A5サイズのメモは持ち込み可としたが、メモの文は最高10文までとした。
- この課題は基準C及び基準D内で評価してある。
- 問題は試験用紙の上部に書かれている。作文の必要最低字数は300字である。

### 評価

#### 基準C 内容と構成

最高レベル8

この作品がレベル2を得た理由は以下の通りである。

- 問われている内容について、少し述べているが、準備する時間が与えられ、メモが持ち込み可という条件にも関わらず、内容があまりにも、初歩的である。
- テーマに沿った内容だが、詳細さに欠ける。必要最低字数は300字であるにもかかわらず、この作文は141字しか書かれていない。
- 書かなければならないポイントは問題用紙に全て書いてあるのだから、それに全部答えなければならない。
- 筋道の通った内容であるが、作文の構成 (フォーマット) は (教師側から) 与えられたものである。

以下の項目が習得できていれば同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- もっと詳しく書く。準備する時間があり、またメモが持ち込み可なのだから、そうでない場合より、内容の質がもっと高いものでなければならない。それゆえ、この作文には詳細さがもっとなければならない。
- 接続詞を使う。
- 絶対量を増やす。作文の必要最低字数は300字である。これだけあればもっと詳細さや理由付けを加えることができる。

## 基準D 言語

### 最高レベル8

この作品がレベル2を得た理由は以下の通りである。

- 限られた範囲の語彙しか使われていない。
- カタカナやひらがな、基本的な漢字が正しく書かれていない。
- 単純な文法事項を使った文章内に初歩的誤りが多く見られる。そのため、理解しにくい部分がある。
- 助詞の誤りが多い。

## 生徒回答

Last week we went to a Japanese restaurant for lunch. Write a report about this trip. You must write at least 300 characters. You may use your summary notes to assist you in this assessment task. When you write your report consider the following

- When did you go to the restaurant?
- Where was the restaurant?
- What was it called?
- What kind of restaurant was it?
- How did you travel to the restaurant?
- Who did you go with?
- What did you eat/drink?
- How much did your lunch cost?
- How would you describe the excursion?
- Would you go again?

### Student B      しばたのレストランえんそこ

せんしゅう、本日ごのレストランにいきます。3日3月でした。バスにいきます。しばたのレストランでにほんごのたべものをたべます。とまだしとたべます。たべものわごはんとスープとフィッシュとてんぷらです。のみものわコクです。おいしでした。たのしいです。十二ドルです。